

2本の黒帯を装う点で、日本産の他のナガツツハムシ類から明瞭に区別される。従来、台湾および中国から記録されているもので、琉球列島からは初めての記録となる。

本属は日本から初めて記録されるもので、体型はやや太目で短く、上翅の側片は基部が顕著に拡がり、尾節板が露出していることが特徴である。

2 exs., 沖縄県竹富町西表島船浮, 3. V. 2012, 大木裕採集 (標本は大木・滝沢保管)。

引用文献

Chûjô, M., 1952. A taxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, part 5, Clytrinae. Techn. Bull. Kagawa Agr. Coll., 4 (1): 32-49.

木元新作・滝沢春雄, 1997. 台湾産ハムシ類 幼虫・成虫分類図説. 581pp., 東海大学出版会.

(大木 裕 225-0015 横浜市青葉区荏田北
2-17-13)

(滝沢春雄 349-0122 蓮田市上 2-7-16)

【短報】千葉県におけるクロサワドロムシの記録

クロサワドロムシ *Neoriohelmis kurosawai* Nomura, 1958 は、河川上流域を中心に生息する種で (吉富ほか, 1999), 南関東では埼玉・神奈川両県に記録があるが、神奈川においては1例と少ない (新井, 2007; 守屋, 2004). 北関東・南東北・新潟県などでは比較的普通とのことである。最近、千葉県産甲虫の新記録種をまとめた報文が発表された (鈴木・斉藤, 2011). そこで、最近の全国誌等も含めた既報を調べたところ、本種は千葉県未記録の可能性が高いことがわかった。古い記録になるが、筆者は、既知産地から飛び離れた房総丘陵の標本を所持しているの、報告しておく。

1 ex., 千葉県富津市高宕山, 24. V. 1992. 鎌倉正人採集。

沢の源流部をつめて歩いていたとき、足元で偶然見出したものと記憶している。外観がやや細身の個体である (図1)。

末筆ながら、本種であることを確認いただいた



図1. 千葉県産クロサワドロムシ。

愛媛大学の吉富博之博士に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

新井浩二, 2007. 埼玉県のヒメドロムシ類. 寄せ蛾記, (125): 1-21.

守屋博文, 2004. 県内産ヒメドロムシの追加と削除. 神奈川虫報, (146): 50.

鈴木 勝・斉藤明子, 2011. 千葉県動物誌, 千葉県産動物総目録に掲載されていない甲虫422種. 房総の昆虫, (48): 1-26.

千葉県史料研究財団, 2003. コウチュウ目. 千葉県産動物総目録: 207-258.

山崎秀雄, 1999. 千葉県の鞘翅目, pp. 634-718. 千葉県動物誌. 1247 pp., 文一総合出版, 東京.

吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95-116.

(鎌倉 正人 215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-1-26 柿生グリーンハイツ 101)

【短報】埼玉県嵐山町で採集されたクリイロヒゲハナノミの北限記録

クリイロヒゲハナノミ *Macrotomoxia castanea* Pic, 1922 はハナノミ科ハナノミ族に属する甲虫である。体長は8~16.5 mm と大型で、複眼の個眼が大きく粗いことや、採集例のほとんどが灯火であることから、夜間活動性の種と考えられている (高桑, 1998)。

本種の分布は広く、南はマレーシア (マレー半島) やインドネシアのボルネオ島から、北は日本の本州まで記録されているが、九州以北での採集例は少なく、東洋区要素の昆虫と考えられる。これまでの分布北限記録は埼玉県入間市で、益本仁雄氏により大妻女子大学構内の白壁に静止している個体が得られている (高桑, 2006)。

筆者の一人である鶴は、埼玉県嵐山町の菅谷館跡の林内において、ライトトラップによる採集調査を行ない本種を採集したので報告する。採集に使用したのは野村 (2010) によって紹介されている“中瀬式ライトトラップ”で、電源をアルカリ乾電池としたなど若干の仕様の違いはあるが、他の部分



図1. クリイロヒゲハナノミ♀ (埼玉県嵐山町産)。